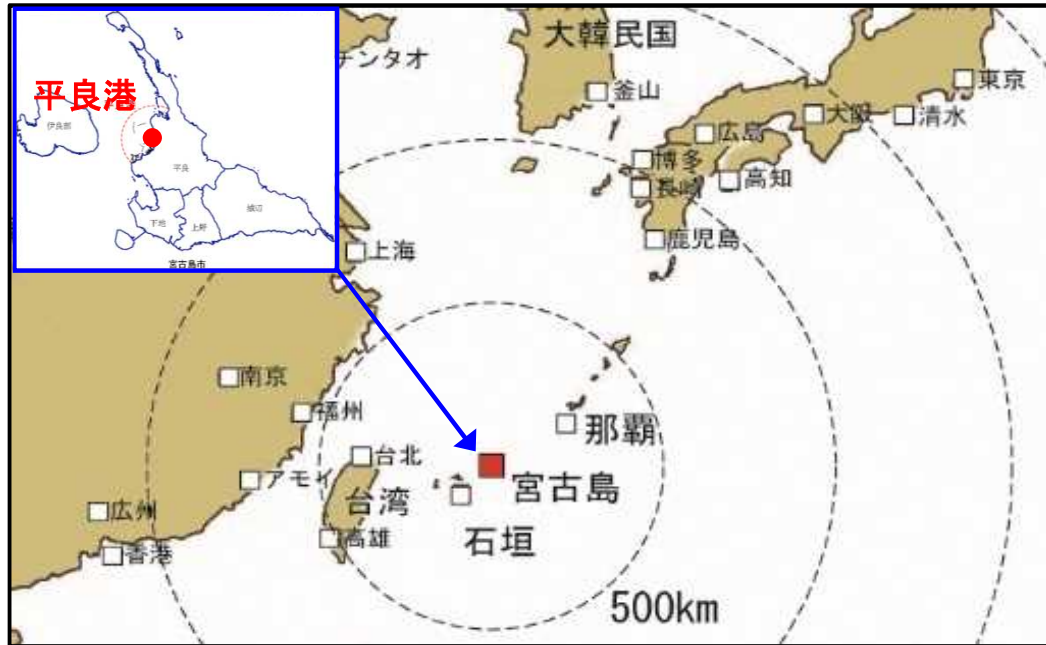


# 平良港 港湾計画一部変更

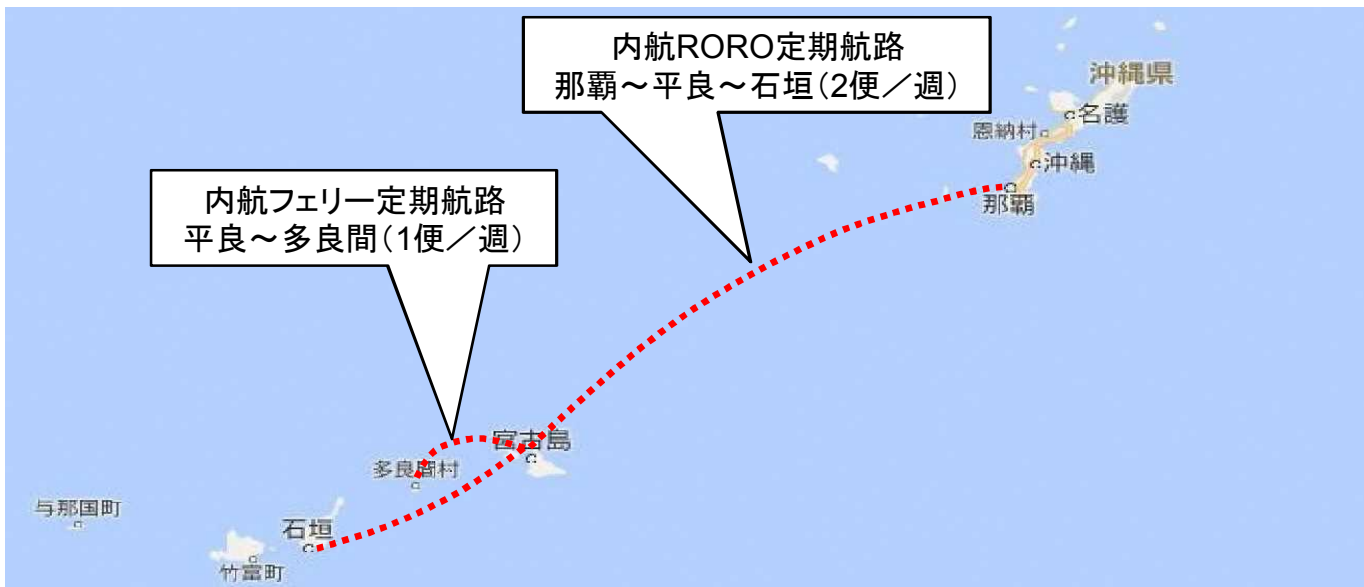
前回改訂：平成20年11月(目標年次：平成30年代前半)

- 平良港は沖縄本島の南西約300kmに位置する宮古島を中心とした地域を背後圏とする港である。
- 多良間島とのフェリー定期航路等を有し、生活物資の受入れや離島住民の発着拠点となっているとともに、近年、クルーズ船の寄港が急増し、地域の観光産業を支えている。

平成30年11月14日  
交通政策審議会  
第72回港湾分科会  
資料1-3



港湾管理者：宮古島市



地域	港名	島名	海上距離(km)
宮古群島	長山港	伊良部島	13
	佐良浜漁港	伊良部島	11
	池間漁港	池間島	9
	前泊港	多良間島	80
	水納港	水納島	81
八重山諸島	石垣港	石垣島	156
	祖納港	与那国島	250
沖縄本島	那覇港	沖縄本島	306
	運天港	沖縄本島	406
	本部港	沖縄本島	320
県外	鹿児島港	九州	1,010
	大阪港	本州	1,549
	東京港	本州	1,970
	基隆港	台湾	395
	上海	中国	820



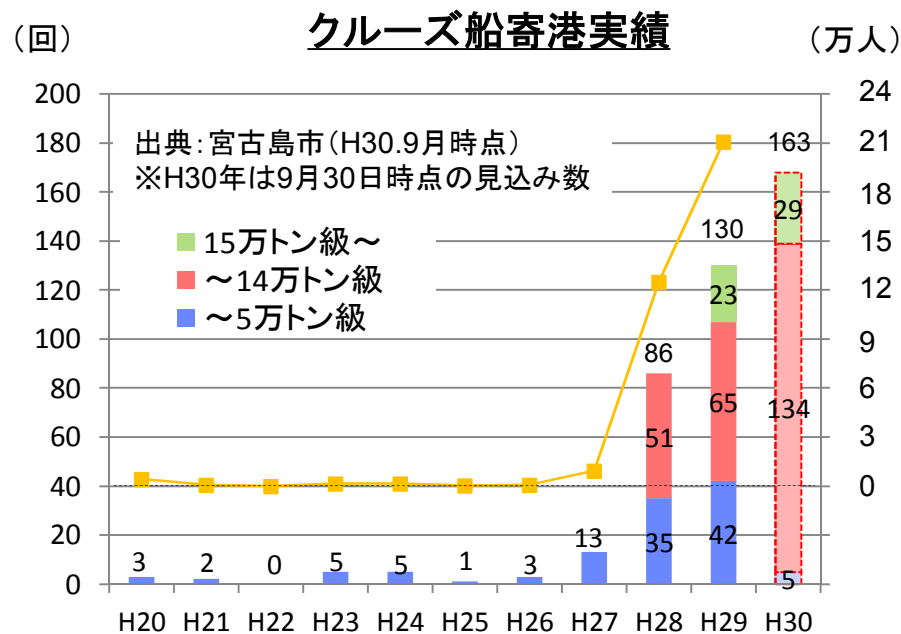
# 計画変更箇所と変更のポイント

○クルーズ船の大型化への対応及びにぎわい空間の形成のため、クルーズ岸壁の延伸・増深、土地利用計画の変更等を行う。

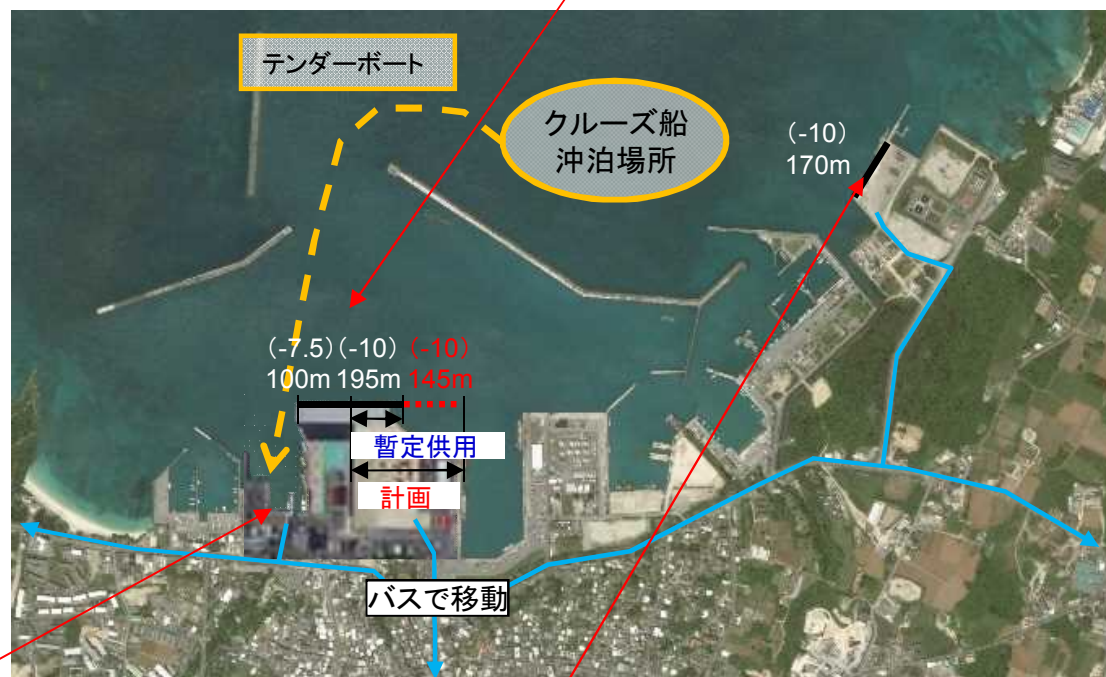




○クルーズ船の寄港回数は、平成28年は86回、平成29年は130回と大きく増加し、大型船の寄港回数も急増。  
 ○現在、原則5万トン級までのクルーズ船は、①漲水地区の貨客併用岸壁(水深7.5~10m)及び②下崎地区の貨物岸壁(水深10m)を利用し、大型クルーズ船は③沖泊・テンダーボート輸送により受け入れている。



① 漲水地区貨客併用岸壁(水深7.5~10m) (H30.4より受入)  
 ※他にRORO船が利用



③ 沖泊・テンダーボート (H28:23回、H29:51回)



テンダーボート

↑ 沖泊してテンダーボートに乗り換え



↑ 浮棧橋にてテンダーボートから上陸

② 下崎地区貨物岸壁(水深10m) (H28:63回、H29:79回)



※主に砂・砂利を取扱

← 岸壁背後において粉じんが舞っている状況

# 【参考】平良港周辺の観光地






# 計画変更の内容①(クルーズ船の大型化への対応)

- 国際クルーズ拠点整備事業(14万トン級クルーズ船に対応する岸壁等の整備)を実施中。
- 平成29年には、14万トン級を超える船舶の寄港が23回あったほか、ゲンティン香港より新造船(20万トン級)の入港要望がある等、今後入港船舶の更なる大型化が想定されており、世界最大級のクルーズ船に対応した計画に変更。


## 対象船舶

(既定計画)  
【延長・水深】  
マジェスティック・プリンセス  
総トン数:143,700トン  
全長:330m 岸壁必要延長:400m  
全幅:38.4m  
喫水:8.4m 必要水深:10m  
乗客定員:3,560人



※2020年就航見込(新造船)  
ゲンティン香港グローバルクラス  
総トン数:204,000トン  
全長:342m  
全幅:46.4m  
喫水:9.5m  
乗客定員:約5,000人

完成イメージ



— 既定計画  
— 今回計画

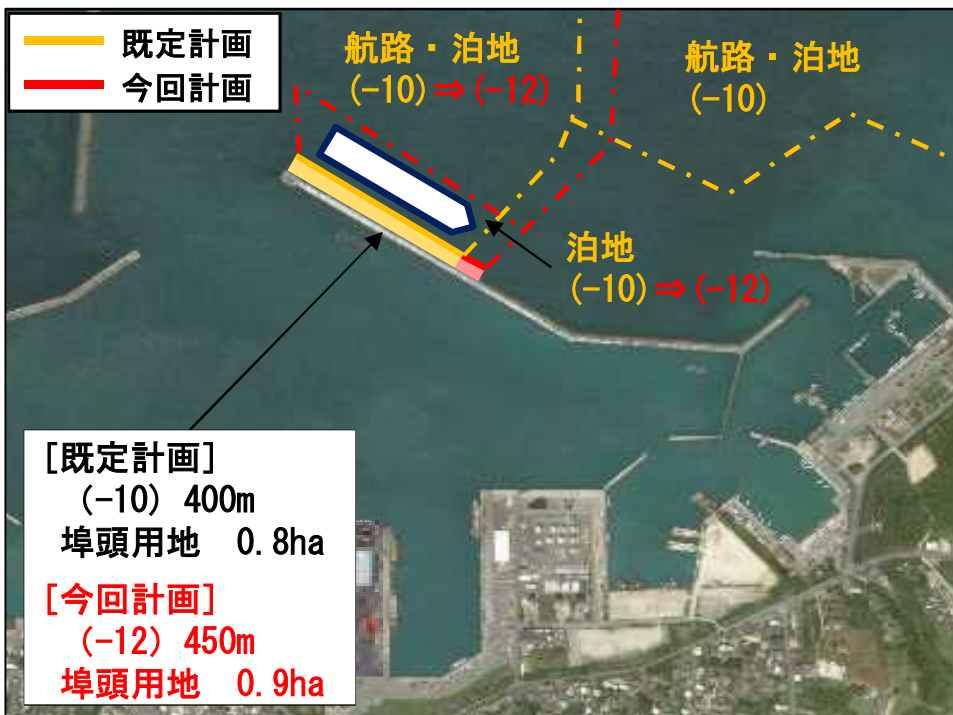
航路・泊地 (-10) ⇒ (-12)

航路・泊地 (-10)

泊地 (-10) ⇒ (-12)

[既定計画]  
(-10) 400m  
埠頭用地 0.8ha

[今回計画]  
(-12) 450m  
埠頭用地 0.9ha



(今回計画)  
【延長】  
オアシス・オブ・ザ・シーズ  
総トン数:225,282トン  
全長:360m 岸壁必要延長:450m  
全幅:47.0m  
喫水:9.3m  
乗客定員:5,400人

【水深】  
クイーン・メリー2  
総トン数:151,400トン  
全長:345m  
全幅:39.9m  
喫水:10.3m 必要水深:12m  
乗客定員:2,592人



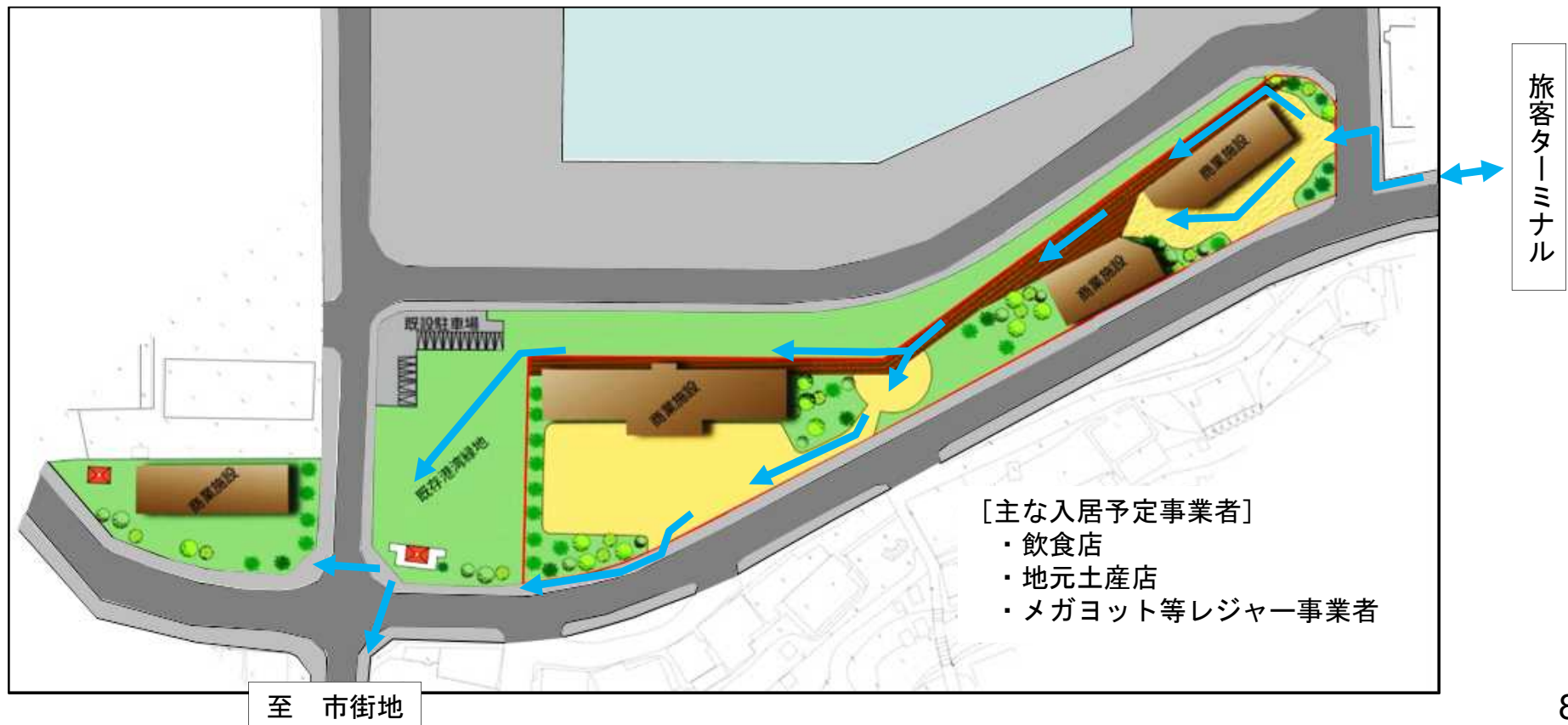




# 計画変更の内容②(土地利用計画の変更)

- クルーズ岸壁の整備に合わせ、漲水地区においてターミナル施設等の整備を予定。
- クルーズ客を中心市街地へ誘導するため、土地利用計画を変更(緑地→交流厚生用地)し、商業施設を整備して、旅客動線の快適性を向上させる。

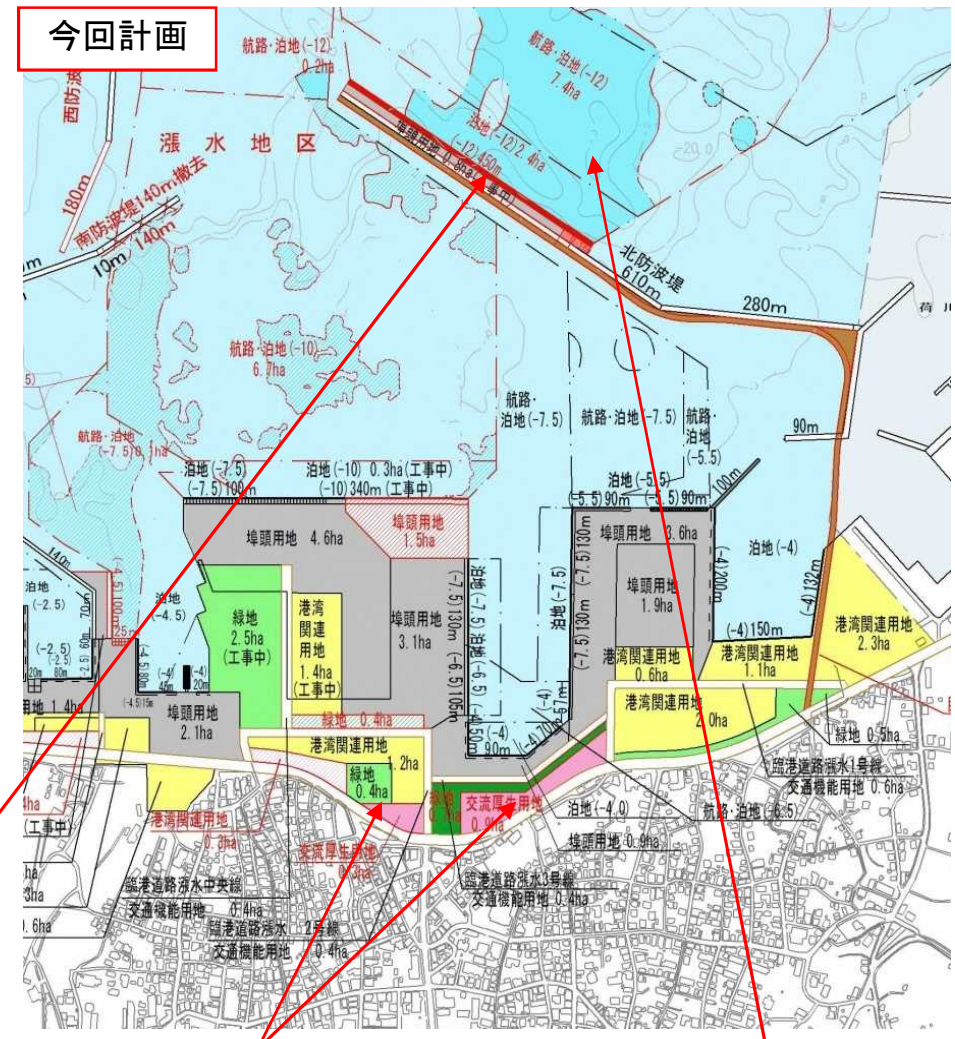
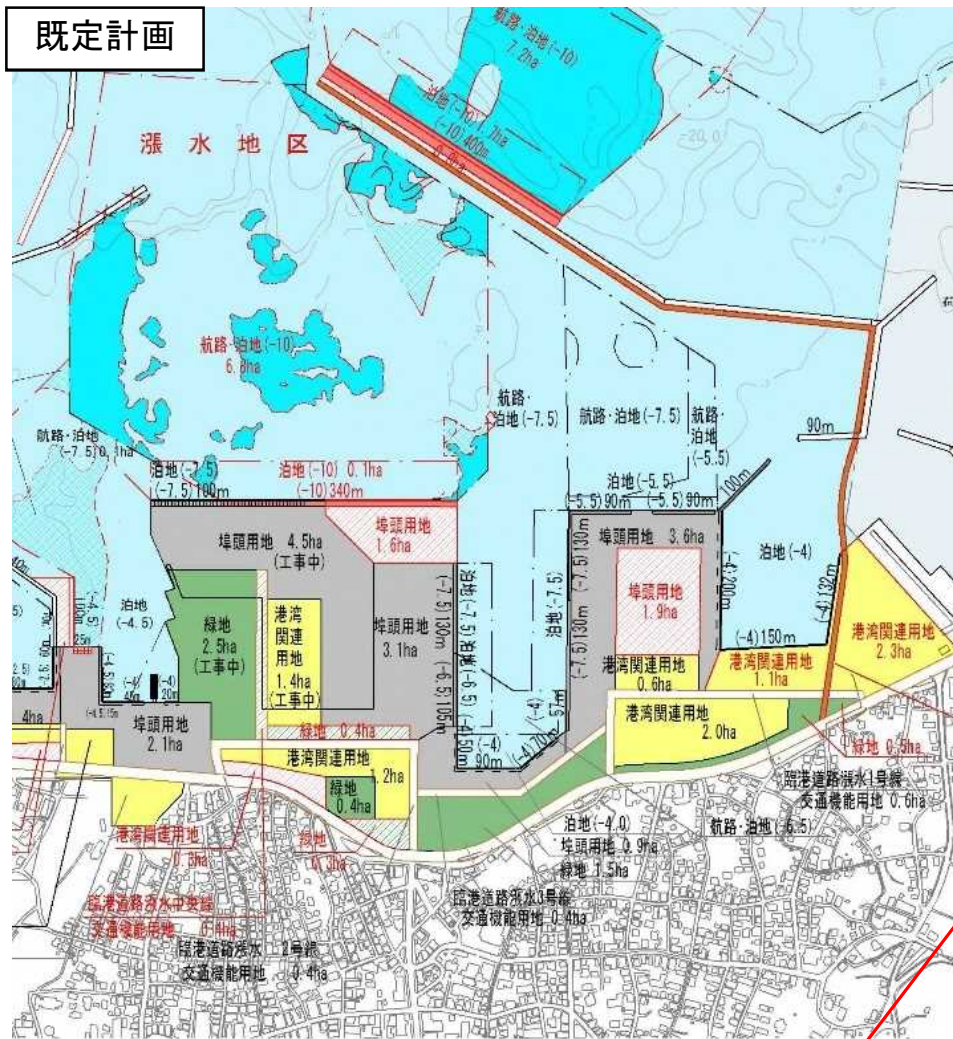










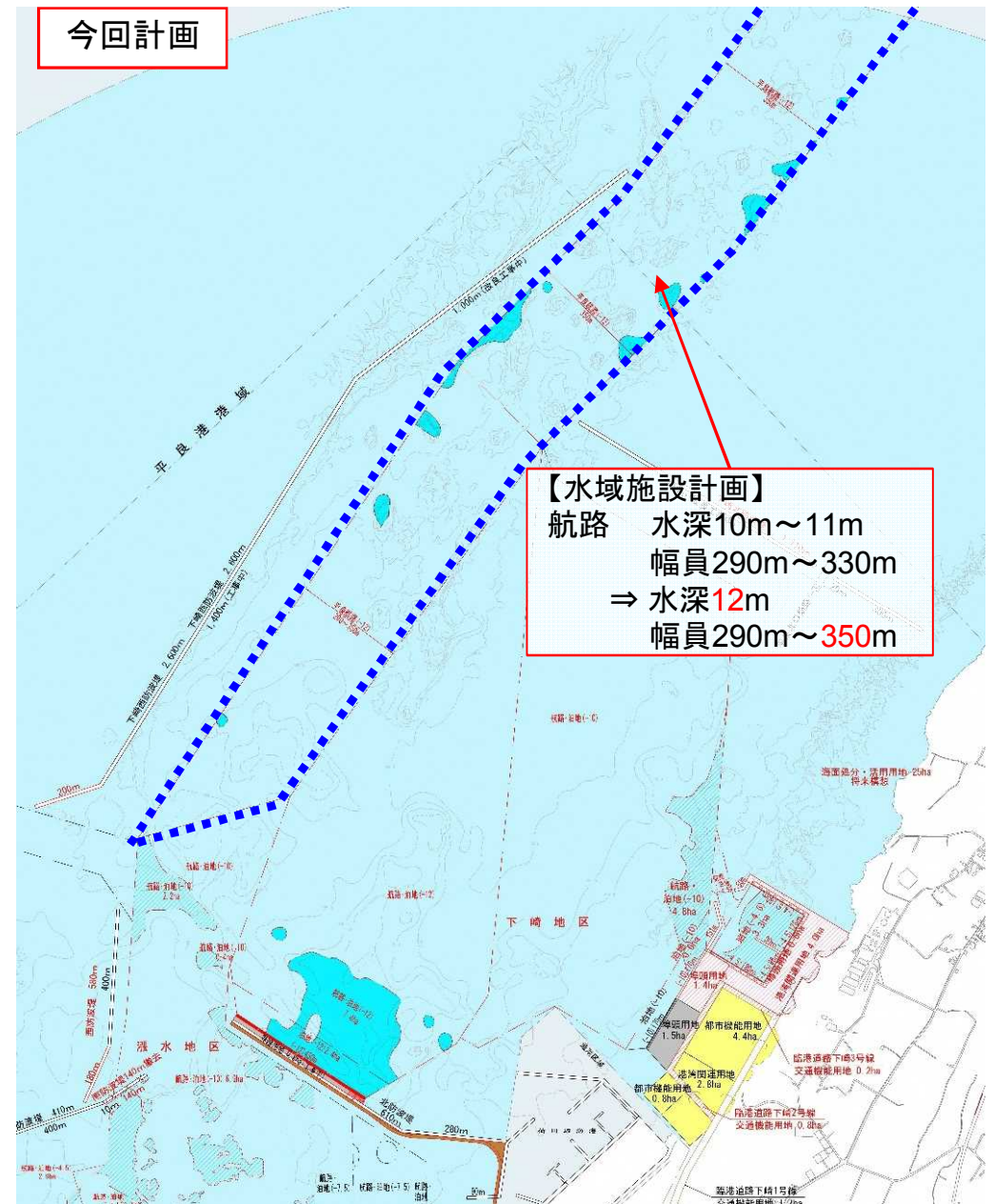
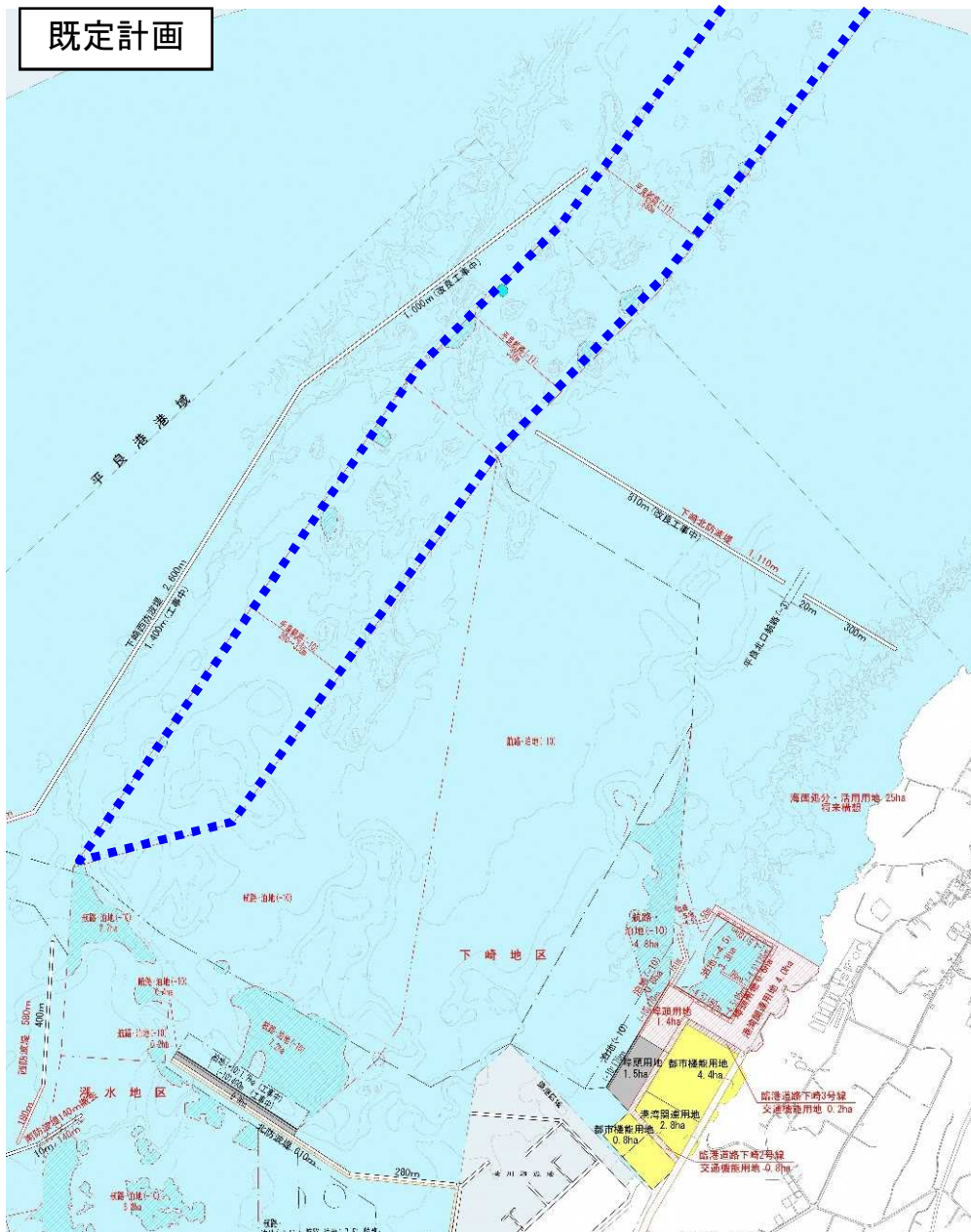


**【旅客船埠頭計画】**  
 岸壁 水深10m 1バース 400m  
 埠頭用地 0.8ha  
 ⇒ 水深12m 1バース 450m  
 埠頭用地 0.9ha

**【土地利用計画】**  
 緑地 1.8ha  
 ⇒ 交流厚生用地 1.2ha  
 緑地 0.7ha

**【水域施設計画】**  
 航路・泊地 水深10m 7.2ha  
 ⇒ 水深12m 7.4ha  
 泊地 水深10m 1.7ha  
 ⇒ 水深12m 2.4ha





## 「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」との適合

### I 今後の港湾の進むべき方向

#### 4 活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理

##### ③観光や海洋性レクリエーションを核とした交流空間の形成

観光による地域の活性化や人々の交流を支えるフェリー、旅客船、クルーズ船等の多様な要請に対応した、快適で利便性の高い交流空間を形成する。このため、地域の特性に配慮した旅客ターミナル施設や交流施設を整備する。また、まちづくりと一体となって、水際線を有する魅力ある空間を形成する。さらに、運河等を活用して水上ネットワークを活性化するとともに、地域の観光資源等を活用した水辺の賑わい空間を創出する。

(後略)

### V 港湾相互間の連携の確保

#### 2 各地域における港湾相互間の連携

##### ⑩沖縄地域

東アジア地域に近いという地理的優位性や独特の歴史・文化的特性、亜熱帯性気候に属することによる恵まれた自然環境等を有している沖縄地域では、沖縄本島と主要な離島に立地する重要港湾が連携して、海上輸送網の拠点としての機能を担う。沖縄地域の港湾では、国際物流拠点産業集積地域の制度等を活用して、物流の拠点としての機能を向上させる。また、異なる魅力を有する離島が点在するという特性を活かして、クルーズ船のネットワークの充実に向けて、本島及び離島の港湾が連携して取り組む。さらに、沖縄特有の環境と共生したみなとづくりをより一層進める。

## 「港湾の中長期政策「PORT2030」」との適合

### V 港湾の中長期政策の基本的な方向性

#### 3 列島のクルーズアイランド化

①日本列島全体をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズアイランドに進化させる。

③外国人クルーズ旅行客に快適な旅を提供するため、ターミナルビル等において無料無線LAN整備、案内の多言語化等にも対応し利便性を向上させる。

#### 4 ブランド価値を生む空間形成

①海からの視点も考慮した「海に開け、船を迎え入れる」美しい景観の形成

③みなとに賑わいを呼び込み、外国人旅行客・市民の交流の場を提供